

愛媛大学教職大学院研究発表大会2024

SESSION I 課題研究報告【第I部】

第I部会 ウェルビーイング・人材育成

地域連携教育推進に向けた カリキュラム・マネジメントの実践的研究 ー児童のウェルビーイングの向上を目指してー

愛媛大学教職大学院
教育学研究科 教育実践高度化専攻
リーダーシップ開発コース

伊藤 芽久美
指導教員 露口 健司 田頭 良博

研究の背景

教育を取り巻く社会状況

少子・超高齢化
社会

グローバル化・
国際環境の変化

学校が抱える課題の
複雑化・多様化

地域社会の支え合い
希薄化・家庭の孤立化

教育の動向

「次世代の学校・地域」創生プラン 中教審3答申(2016)

学校運営協議会設置努力義務化(地行教法 2017)

日本社会に根差したウェルビーイングの向上
(次期教育振興基本計画 中教審答申 2023)

地域コミュニティの核としての役割
「地域とともにある学校」への転換

学校や地域とのつながりの中で
一体的に育む

学校の現状

コミュニティ・スクールの形骸化

コロナ禍の影響もあり地域との連携が希薄に

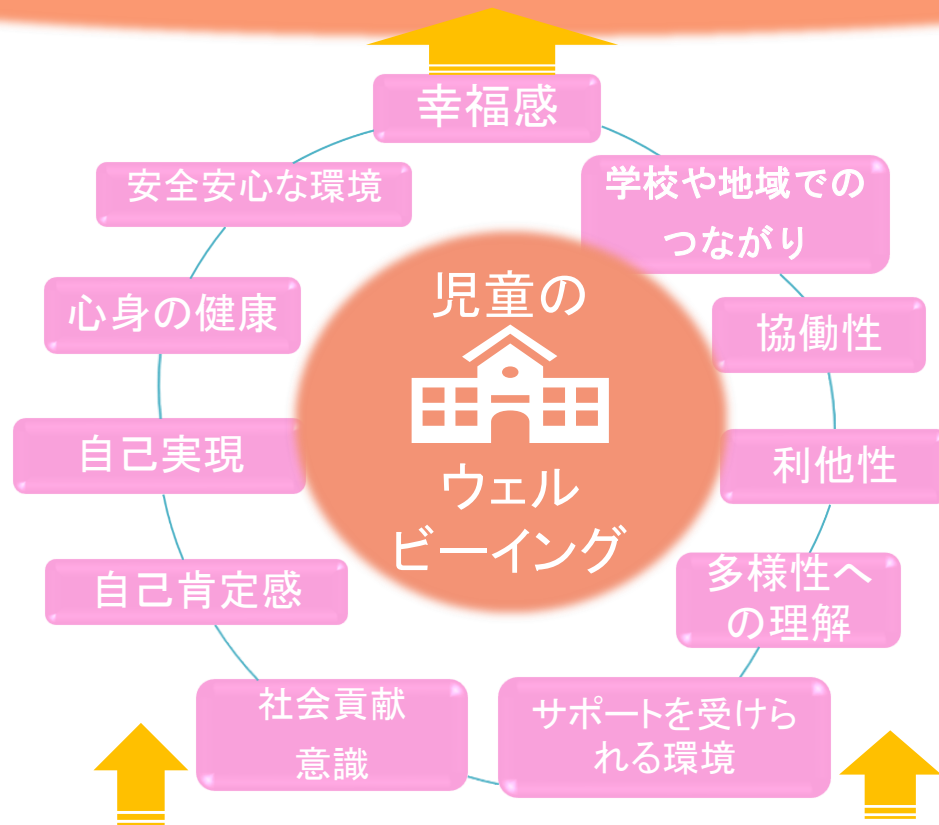
校長・教員の異動によって連携の継続が図れない

様々な課題が浮上
「地域とともにある学校づくり」
を推進するにはどうすれば？

研究の背景

日本社会に根差したウェルビーイング要素

学校に携わる全ての人々のウェルビーイングの向上



子供たちのウェルビーイングを高めるためには、**教師をはじめとする学校全体のウェルビーイングの確保が重要**

教師のウェルビーイング

- ・職場の心理的安全性
- ・良好な労働環境
- ・保護者や地域との信頼関係
- ・子供の成長実感

地域コミュニティを基盤に
保護者・地域との協働

教師のウェルビーイングの確保

(次期教育振興基本計画 (答申) R5. 3月 を参考に作成)

先行研究①地域連携担当教員について

地域連携担当教員について

井上 武彦(2017)

「学校と地域のネットワーク構築—地域連携担当教職員の役割モデルの開発」

地域とのつなぎ役ができたことで、「ネットワーク」や「互酬性規範」、あるいは「信頼」まで構築することができる。

コミュニティ・スクールと地域連携担当教職員のセットで、地域とかかわっていくための学校側の仕組みが出来上がる。

他県の先行実践

岡山県教育委員会

2012年より県内すべての公立小中学校、県立学校に「地域連携担当」を校務分掌として位置付け、地域連携担当教職員を対象とした研修や社会教育主事講習の受講促進を図っている。学校と地域の連携・協働のためのガイドブックの作成など、促進のための環境づくりを県レベルで組織的に行っている。

先行研究②ウェルビーイングについて

ウェルビーイングとは

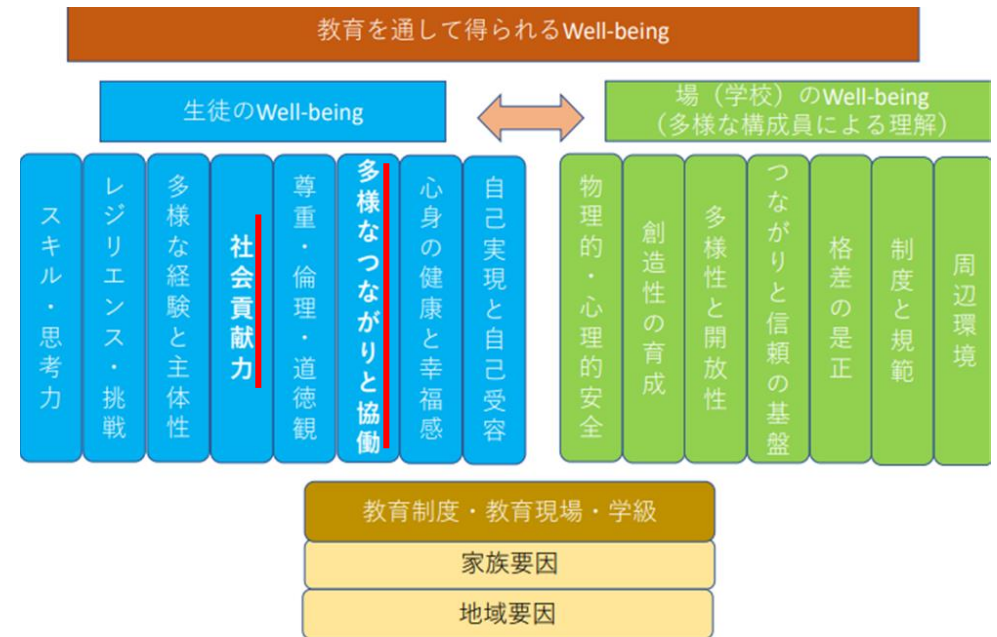
内田由紀子（2020）

「教育政策におけるウェルビーイング」

ウェルビーイング

=より包括的で、個人のみならず個人をとりまく「場」が持続的によい状態であること。

ウェルビーイングは個人の幸せから深化し、この町、学校、世界を良くしていきたいという利他性や公共性まで広がっていくもの



コミュニティ・ウェルビーイングの定義

地域への親しみや信頼、利他性、協働性、社会貢献意識など、地域とのつながりの中で育まれる地域における人々のウェルビーイングをコミュニティ・ウェルビーイングと定義する。

研究の目的

先行的に実践例のある「地域連携教育推進主任」を校務分掌として設置し、総合的な学習の時間を核としたカリキュラム・マネジメントの実践を通して地域連携教育を推進し、児童のウェルビーイング向上への効果を検証する。

研究課題

- 1 地域連携教育推進主任がどのような役割を果たせば、教員の地域連携教育に対する負担感・不安感が軽減され、推進への意欲化を図ることにつながるか。
- 2 地域連携教育を継続的かつ計画的に推進していくために求められる総合的な学習の時間を核にしたカリキュラム・マネジメントのポイントは何か。
- 3 地域連携教育の充実を図ることは、児童のコミュニティ・ウェルビーイングの向上につながるか。

研究方法

- 1 研究対象 2023年度A市立B小学校児童4年生以上の児童293名、教職員35名
- 2 アンケート調査 Googleフォームを活用し、アンケート調査を6月、11月に実施

【児童】

- | | | |
|---------------------|-----|------|
| ・基礎データ（性別、学年、クラス） | | |
| ・コミュニティ・ウェルビーイング | 5件法 | 14項目 |
| ・ウェルビーイング（個人） | 5件法 | 4項目 |
| ・地域学習に関する質問（地域学習意欲） | 5件法 | 6項目 |

【児童アンケート】



【教員アンケート】



【教職員】

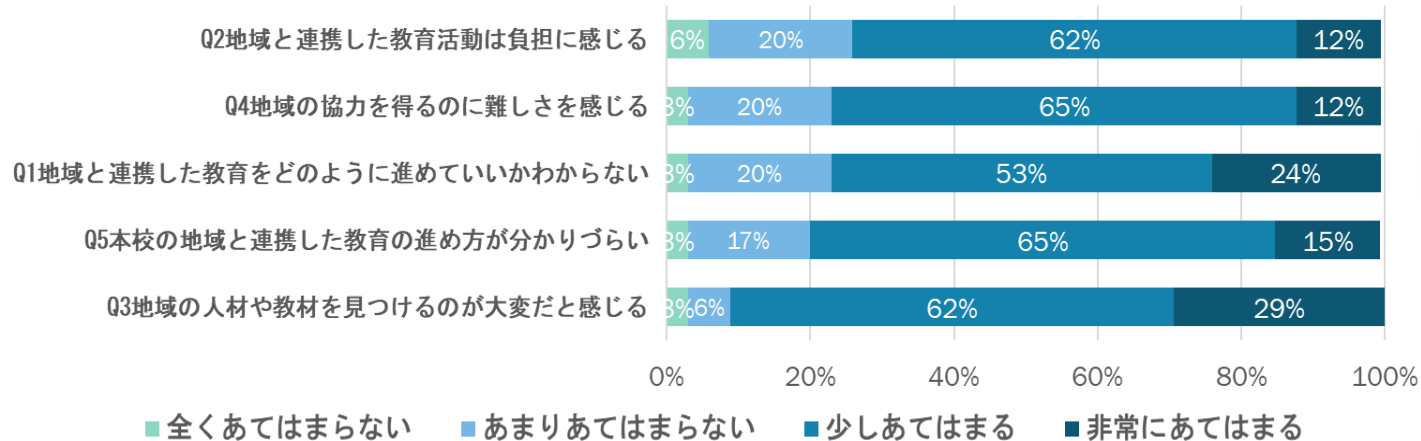
- | | | |
|----------------------------|-----|------|
| ・基礎データ（性別、年代、B小勤務年数、担当学年） | | |
| ・コミュニティ・ウェルビーイング | 5件法 | 14項目 |
| ・ウェルビーイング（個人） | 5件法 | 4項目 |
| ・地域連携教育への意識調査 | 4件法 | 5項目 |
| ・地域連携教育推進主任導入の効果について※11月のみ | 5件法 | 10項目 |

- 3 質的調査（ヒアリング）
- 4 地域連携教育推進主任としての実践

研究課題1(調査結果の分析)▶地域連携教育推進主任の役割

教員のアンケート調査より

地域連携教育への負担感・不安感(6月) 本校教員(n=34)



地域コーディネーターの調査より

- ① 教職員の地域コーディネーター及び地域連携教育への知識・理解不足
- ② 保護者(地域)の地域連携への認識不足
- ③ 学校の地域連携教育が分かりづらく教育資源の発掘・授業提案がしにくい。
- ④ 地域コーディネーターと学校側の役割が明確ではない。
- ⑤ 学校側の窓口があると連携しやすい。

地域連携推進主任の役割

- 1 総合的な学習の時間を核とした地域連携教育のカリキュラム作成による活動の可視化
- 2 教職員の地域連携教育に対する理解促進を図る校内研修
- 3 地域連携教育の授業提案及び計画・調整・人材確保
- 4 地域(保護者)の願いを反映する学校運営協議会による熟議
- 5 地域教育資源の情報収集及びバンク作成

研究課題1(実践研究)▶組織づくり

組織としての課題

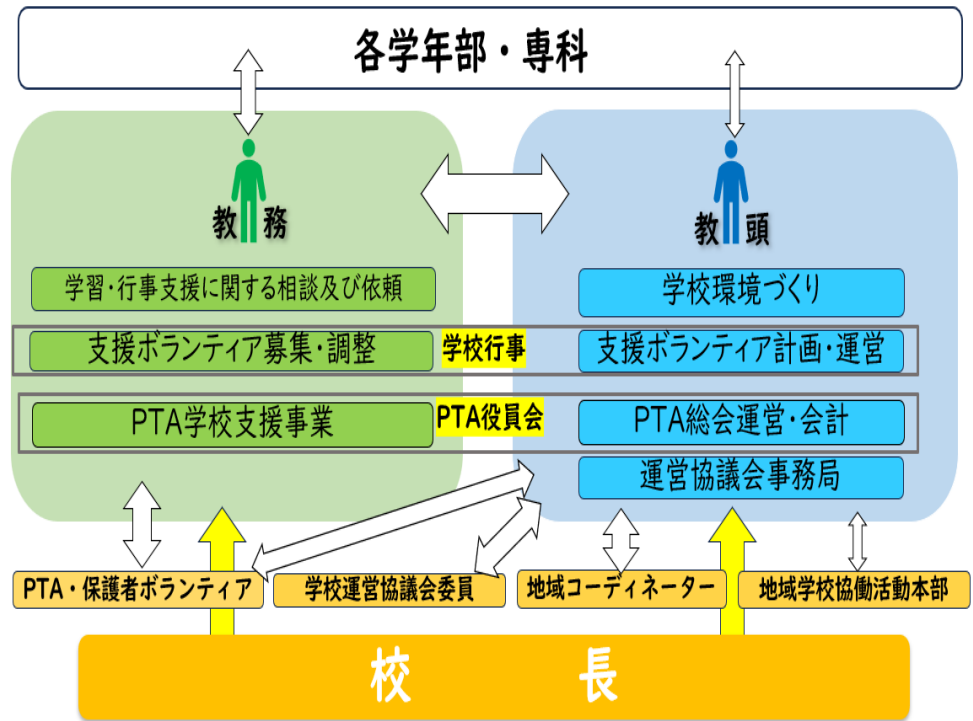
【課題1】
教頭の業務負担

【課題2】
学校運営協議会の熟議の場としての機能

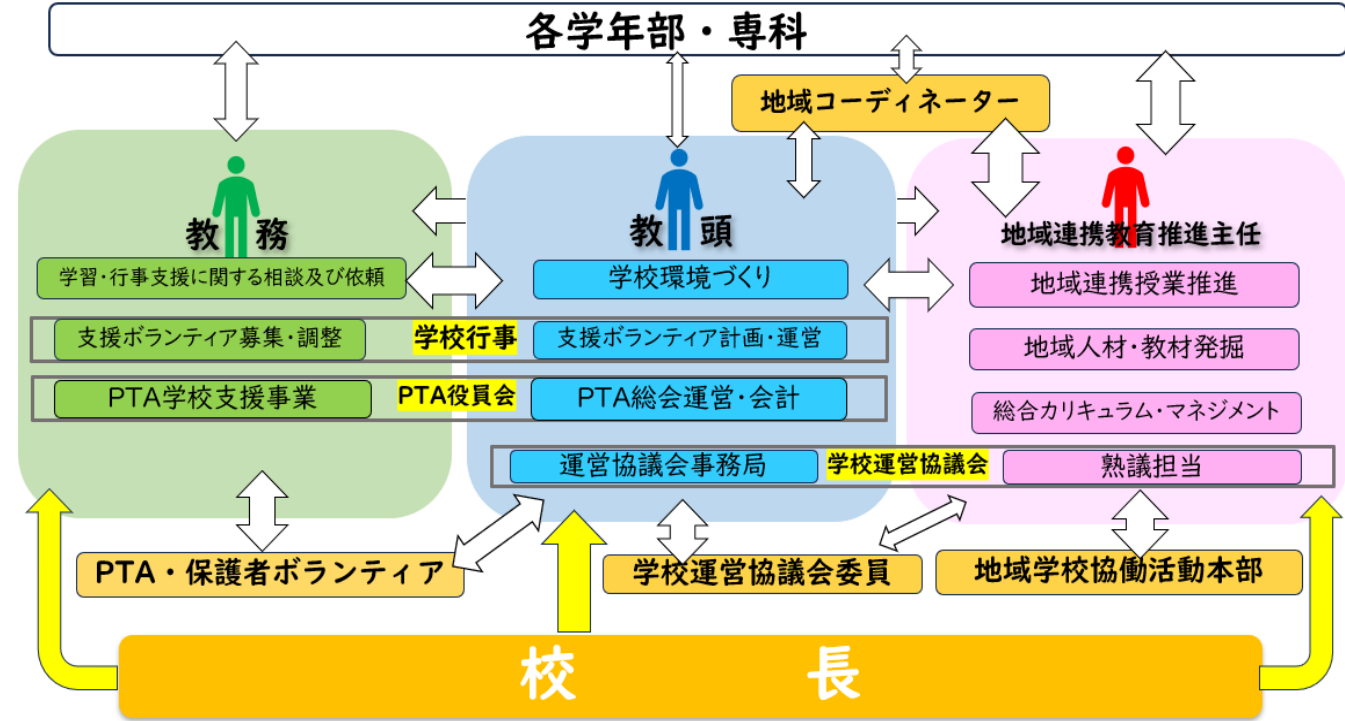
【課題3】
地域学校協働活動本部とのつながり

【課題4】
地域コーディネーターの役割

【昨年度】



【今年度】



効果

【効果1】
地域との連携授業の活性化

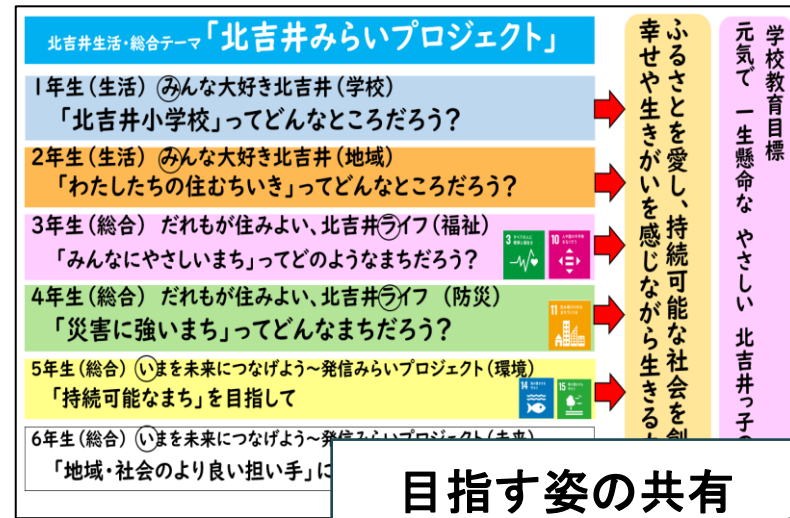
【効果2】
学校改善に向けた熟議の実践

【効果3】
地域学校協働活動本部の活用活性化

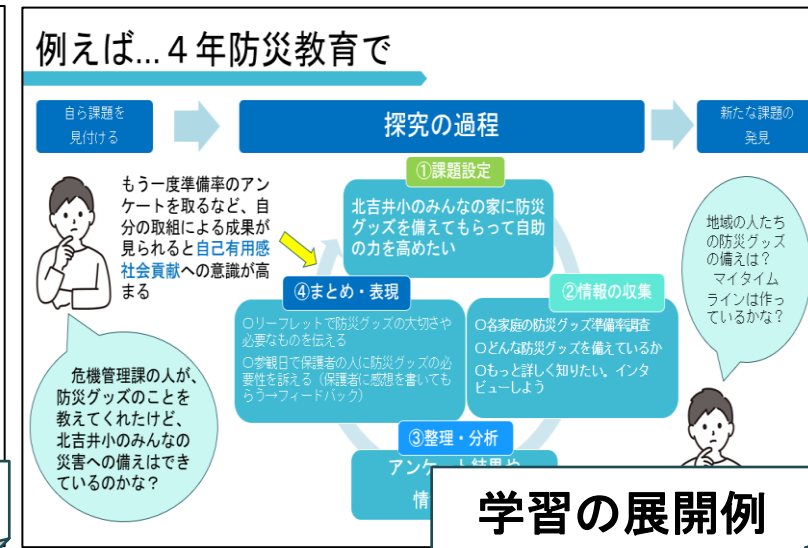
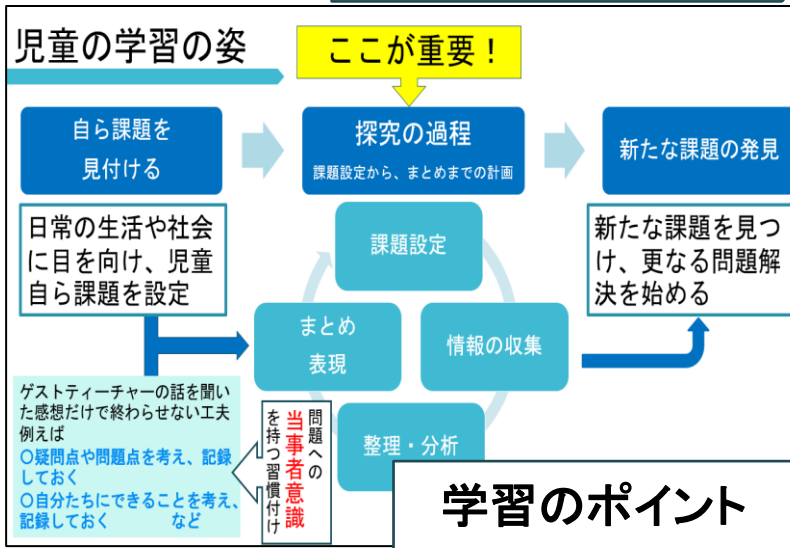
【効果4】
地域コーディネーターの活動の場の広がり

研究課題1(実践研究)▶校内研修の実施・地域連携授業推進

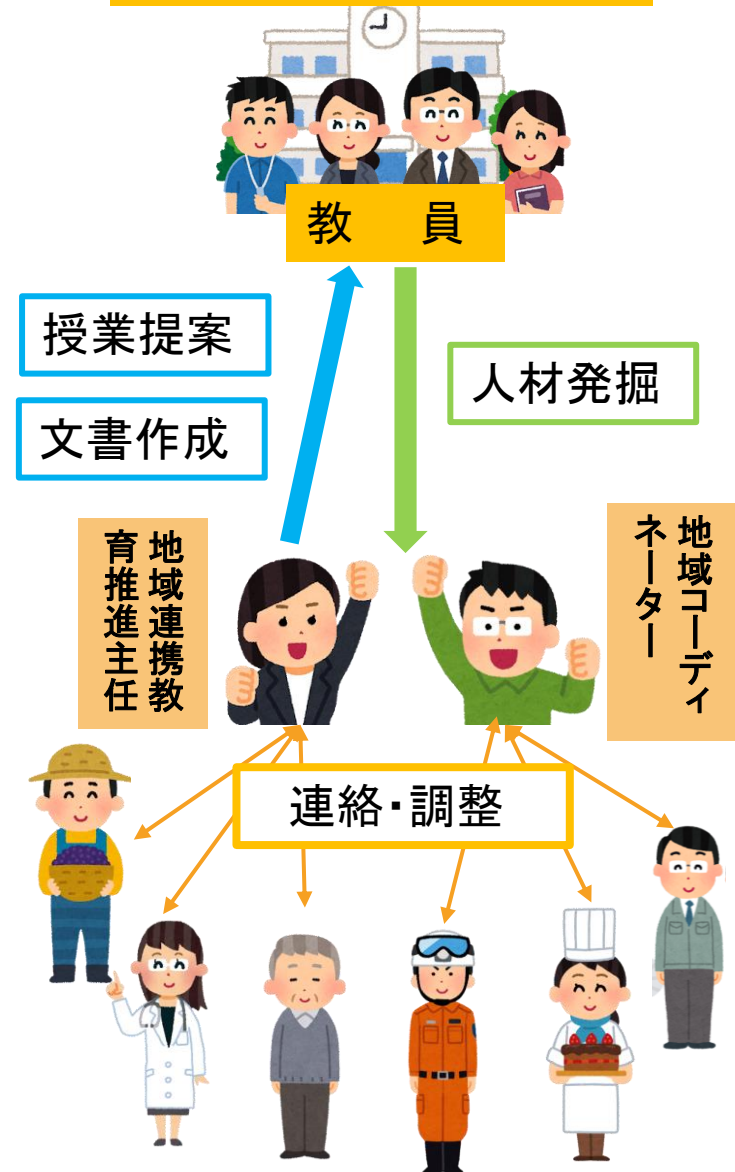
6月校内研修



11月校内研修



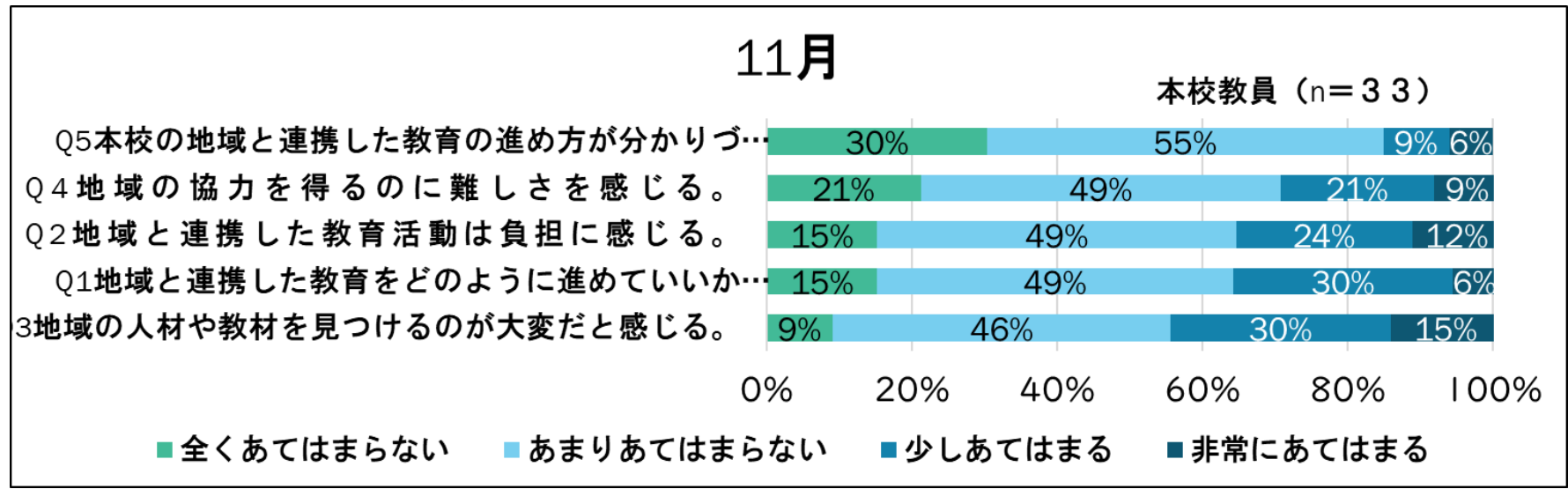
連携授業推進



6月の研修では、生活・総合で目指す児童像や学習の方向性、地域との連携・協働の必要性を示し、意識の転換を促した。11月は総合の学習を通して育てる資質・能力についての理解や総合の学習のポイントを示した。

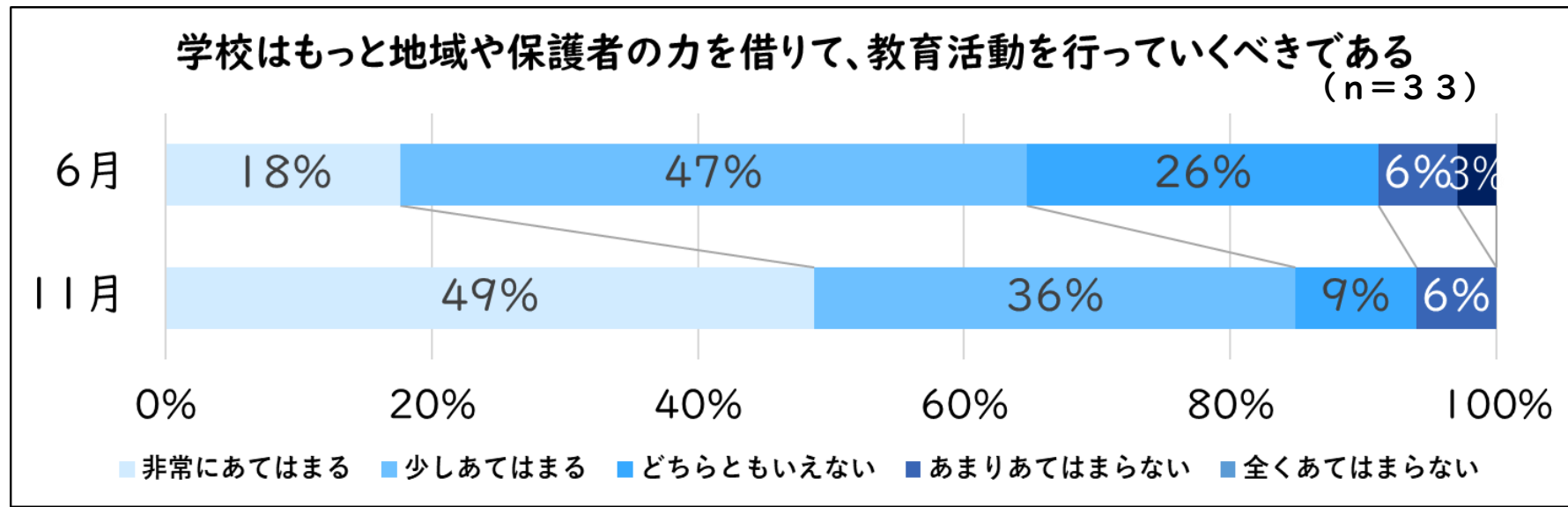
研究課題1(分析と考察)▶地域連携に関する意識の変容

地域連携教育への負担感・不安感



地域人材・教材発掘への困難
91%→45%に減少
進め方への不安
91%→15%に減少
カリキュラムの可視化の
効果大きい

地域との連携・協働した教育活動の必要性

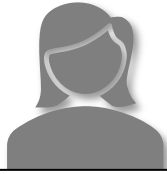


地域との連携・協働の教育
活動必要性
65%→85%
「非常にあてはまる」
18%→49%

学校側が、もっと地域の力を
借りていくべきという意識に
変化

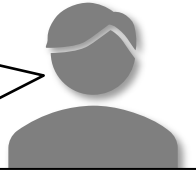
意欲向上

研究課題1(分析と考察)▶ヒアリング調査(一部抜粋)



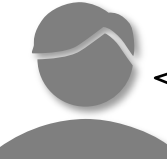
20代女性教員

- ・地域の人とどのように関わったらいいのかわからないし、東温市の良さを知らない中で、どのように子供たちに教材化し伝えたらいいのか、何から始めていいかわからないことが行動を止める原因となっていた。
- ・校内研修を通して、総合的な学習の時間の進め方のポイントが明確になり、進める自信がついた。地域の人と関わったことで、協力をしてくれる人がいるという安心感から、もっと関わりを持っていきたいという意欲が出てきた。
- ・人材教材発掘についてはまだ難しさを感じる。



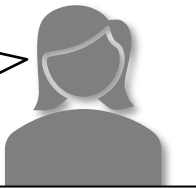
30代男性教員

- ・自分の中にソースがないことが地域連携へのしり込みの原因となっていた。
- ・地域の人を呼んで授業をしたら地域連携教育なのだという認識でいた。
- ・地域連携のネットワークが明らかになり、足止めの原因が消え、地域人材を学びにどう生かしていくかという思考ができるようになった。地域人材を呼ぶこと自体が負担だと思っていたが、人材を活用した方が、業務負担が少ないことに気付いた。
- ・地域連携を進める上での書類等の作成等、手続きの負担はまだ不安材料として残っている。ハードルが下がることでもっと促進される。



40代男性教員

- ・連携先との打ち合わせや新たな授業構想の時間が取れない。物理的に地域との連携教育が無理な状況にある。
- ・物理的に無理だったことが「人」が保障されたことで、学習の流れを持って体験的な活動を行うことが可能となった。
- ・窓口がしっかりあるから今年できたことが多い。次年度以降の課題でもある。
- ・地域連携担当はコーディネート力、行動力のある人が行っていく必要がある。次年度以降への引継ぎも重要。



50代女性教員

- ・相談できる人がおらず、全てが主任の仕事。他校から転任してきたとき資料があっても地域連携の活動の全体像が分からず学習の組み立てが必要で効率が悪い。知らない学年になったときに負担を感じる。
- ・推進主任がいることで段取りを示してくれ負担感なく授業ができた。年間指導計画や小単元計画に学習の流れや連携先が明記されているので他学年でも負担なく主任ができる。
- ・授業までの打ち合わせの時間を学年部で設けることで授業への意欲も高まる。連携先との対面の時間も大切。学担が授業づくりの中心になることを忘れてはならない。

推進教員設置前(黒字)、設置後(青字)、課題点(赤字)

研究課題2(実践研究)▶持続化を図るカリキュラム・マネジメント

カリキュラムデザイン

5年生 総合的な学習の時間													ふるさとに学ぶ		ふるさとを創る		
目指す児童像		ふるさとを愛し、持続可能な地域をつくるために、自ら課題を見付け、追究できる児童															
目 標		地球や、自分たちの住む東温市の環境問題について探求する活動を通して、「環境問題」について考えを深め、北吉井の環境を守るために自分たちができること考え行動する。															
ステージ		気付く					考える			行動する							
月		4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3					
今を未来につなげよう「発信みらいプロジェクト」を目指して	総合的な学習の時間（70）	地域連携	「東温市の環境問題と環境改善の対策について」 【環境保全課 出前講座】			樋口の川を守った「あかくん物語」		麦農家の方のお話 ○東温市名産の麦について知り、東温市の恵まれた環境への理解を深める。		とうおん e-program 【東温市 出前講座】		「北吉井環境会議」 ○地域ボランティアと協働で環境を守る取組について話し合う		「東温市の環境守り隊実行プロジェクト」 ○地域ボランティアと協働で環境を守る取組を行う。 (例) 清掃活動・ポスターづくり・リサイクル活動 東温市の環境PR、善意のごみ箱づくり等			
			「地球の環境問題について調べよう」① (6) ○地球の環境問題について調べる。 ○調べたことを伝え合う。			「東温市の環境の良いところや問題点は何だろう」② (12) ○自分たちの身の回りの環境の良さや課題点、環境を守るための取り組みについて知る。 ○自然に増えれ合う体験をする(地域の願い)			「北吉井の環境を守るためにできることは何だろう」③ (14) ○環境づくりに関する課題を見つける。 ○課題について情報を収集する。 ○私たちの環境を守るためにできることを提案する。(エコ体験活動など)				「北吉井の環境守ろうプロジェクト」④ (12) ○環境を守るために、自分たちにできることを実践しよう。 ○「環境守ろうプロジェクト」の輪を地域に広げよう。 ○学習のまとめ				
			道徳科 「イルカの海を守ろう」 ○自然のすばらしさを知り、自然や動植物を大切にしようとする態度を養う。			道徳科 「一ふみ十年」 ○自然の偉大さを理解し、自然を愛護する態度を養う。		国語科 「みんなが過ごしやすい町へ」 ○東温市の環境保全の対策について調べ報告文を書く。		国語科 「新聞を読もう」 ○環境問題に関する新聞を読み、新聞のかき方を知る。		国語科 「よりよい学校生活のために」 ○よりよい東温市にするために、現状と課題点を整理し、問題解決案を考える。 ○地域ボランティアを招いて環境を守るためにできるところを話し合う。		家庭科 「はだか麦ご飯とみそ汁をつくらう」 ○東温市名産のはだか麦御飯を炊く		国語科 「提案しよう、言葉と私たち」 ○環境をよりよくするために提案したいことを保護者にスピーチする。	
			「交流の家を成功させよう」(10) ○交流の家での目的や活動内容を知る。 ○各係ごとに活動の準備をする。							「バトンを引きつごう」(16) ○6年生を送る会のプロジェクトチームで活動計画を立てる。 ○送る会の準備をする。 ○6年生を送る会の実施							
			PTA奉仕作業			集団宿泊活動						参観日			6年生を送る会 卒業式		
			行事学校														
			ふるさとを愛し、持続可能な地域をつくるために、自分たちができること考え行動する。														

地域の教育資源を効果的に活用

「気付く」「考える」「行動する」単元の構成

教科横断的な視点でデザインする

今後発展していく教育活動のベースとなる
熟議を通して、さらに地域の声を反映したカリキュラムへと改善していく

研究課題2(実践研究)▶持続化を図るカリキュラム・マネジメント

カリキュラムデザイン

5年生 総合的な学習の時間												
目指す児童像		ふるさとを愛し、持続可能な地域をつくるために、自ら課題を見付け、追究できる児童										
目標		地球や、自分たちの住む東温市の環境問題について探求する活動を通して、「環境問題」について考えを深め、北吉井の環境を守るために自分たちができること考え行動する。										
ステージ		気付く				考える			行動する			
月		4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
今を未来につなげよう！発信みらいプロジェクト「持続可能な町」を目指して	地域連携	「東温市の環境問題と環境改善の対策について」 【環境保全課 出前講座】				「北吉井環境会議」 e-program 【東温市 出前講座】			「東温市の環境守り隊実行プロジェクト」 センターと協働で環境を守る取組を 【清掃活動・ポスターづくり・リサイクル活動 東温市の環境PR、善意のごみ箱づくり 等】			
	単元構成	「地球の環境問題について調べよう」① (6) ○地球の環境問題について調べよう。 ○調べたことを発表し合う。				「北吉井の環境を守るためにできること」 ○課題について情報を収集する。 ○自分たちの環境を守るためにできることを実践しよう。 ○「環境を守るプロジェクト」を地域に広げよう。			「北吉井の環境守ろうプロジェクト」④ (12) 「バトンを引きつこう」(16) ○6年生を送る会のプロジェクトチームで活動計画を立てる。 ○送る会の準備をする。 ○6年生を送る会の実施			
(教科横断的な学習)		道徳科 「イルカの海を守ろう」 ○自然のすばらしさを知り、自然や動植物を大切にしようとする態度を養う。				国語科 「よりよい学校生活のために」 ○地域がボランティアを招いて環境を守るためにできることを話し合う。			国語科 「提案しよう、言葉と私たち」 ○環境をよりよくするために提案したいことを保護者にスピーチする。			
行事						PTA奉仕作業		集団宿泊活動			参観日	6年生を送る会 卒業式

地域との連携・協働

「地域を生かす活動」「地域を学ぶ活動」
「地域に貢献・還元する活動」「地域とともに学ぶ活動」
のある単元構成

教科との関連

地域の教育資源を効果的に活用

「気付く」「考える」「行動する」単元の構成

教科横断的な視点でデザインする

今後発展していく教育活動のベースとなる
熟議を通して、さらに地域の声を反映したカリキュラムへと改善していく

ふるさとを愛し、持続可能な地域を感じながら社会を創る力

一覧にすることで全学年の一年間の地域との連携が可視化され、
地域との連携・協働が図りやすくなる。

研究課題2(実践研究)▶熟議のカリキュラムへの反映

熟議の実践

【環境グループ】



熟議テーマ(第2回学校運営協議会)

- ① 「防災・環境に関する課題点」(児童への教育的視点も含めて)
- ② 「課題解決に向けた学習活動について」(地域との協働を視野に入れて)

【環境グループの熟議より】

東温市の環境の問題点だけではなく、自分たちがいかに恵まれた環境で生活しているか体験的に学んでほしい。
東温ははだか麦の名産地。
はだか麦を教材化できないか。

地域の願い

カリキュラムに反映

【総合的な学習の時間】

- はだか麦農家による「東温市の環境とはだか麦」講話
- はだか麦でストローづくり体験

【家庭科】

- 「はだか麦の成長と栄養」講話
- 「はだか麦御飯を炊こう」

CS委員さんが人材発掘に尽力
→授業実現

各区長

アンケート集計
地域の願い
熟議に反映

保護者



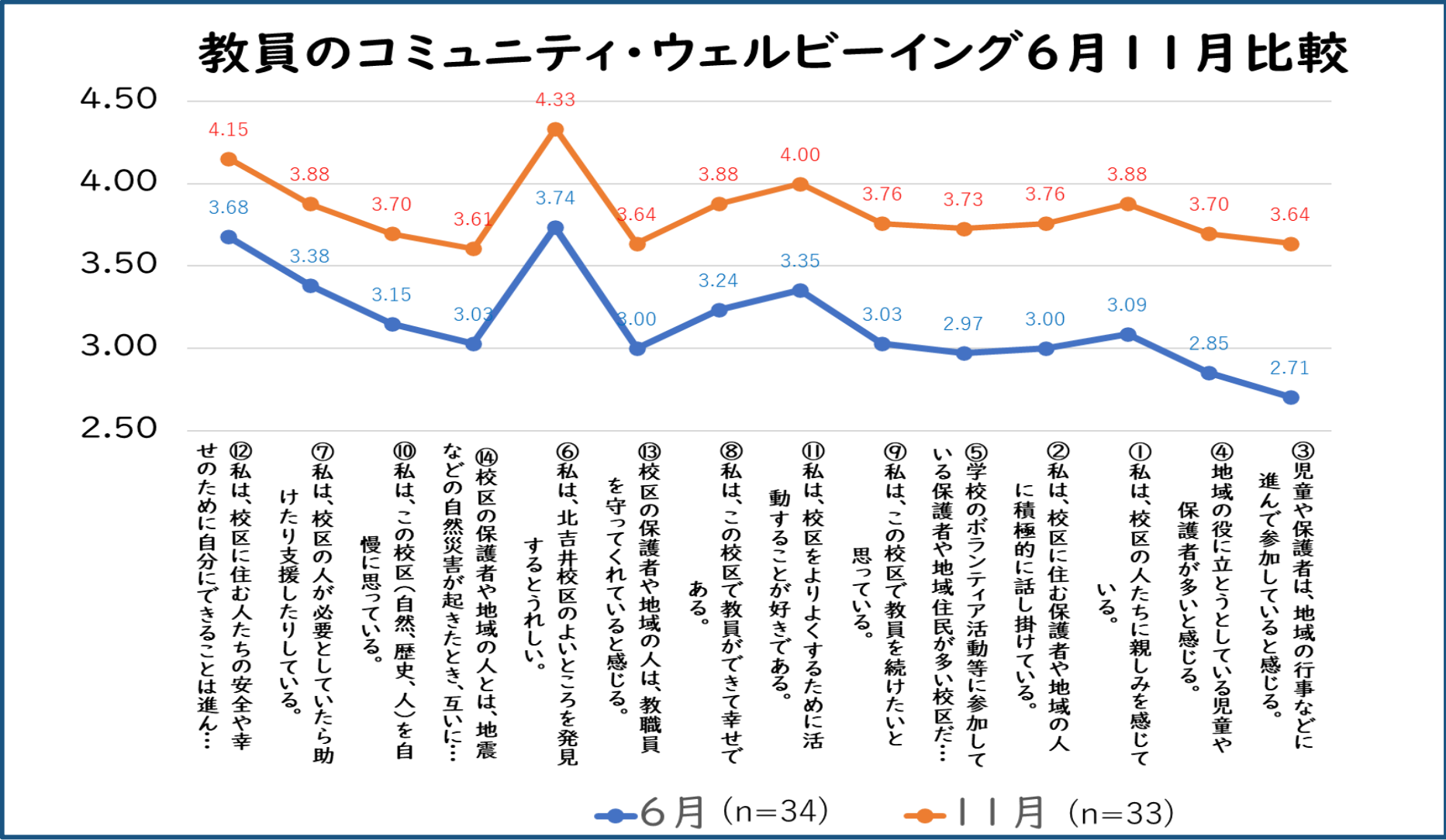
【防災グループ】

研究課題2(分析と考察)▶カリキュラム作成の利点

カリキュラム作成の利点



研究課題3(分析と考察)▶コミュニティ・ウェルビーイングの変化(教員)

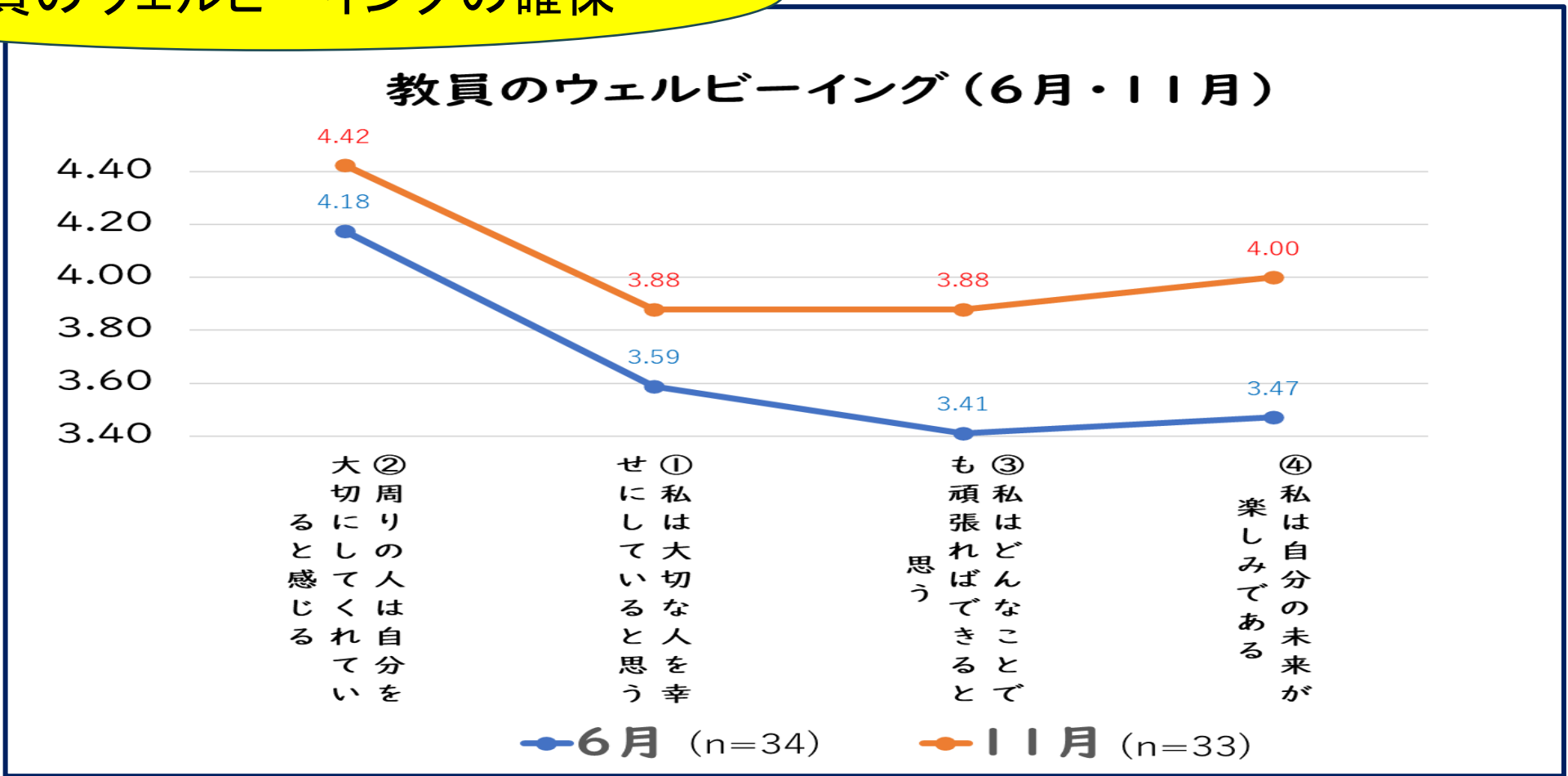


コミュニティ・ウェルビーイングは全体的に向上。特に、地域参加、助け合いの項目が平均値0.85以上向上した。

研究課題3(分析と考察)▶ウェルビーイング(個人)の変化(教員)

教員のウェルビーイングの確保

ウェルビーイングも全体的に向上



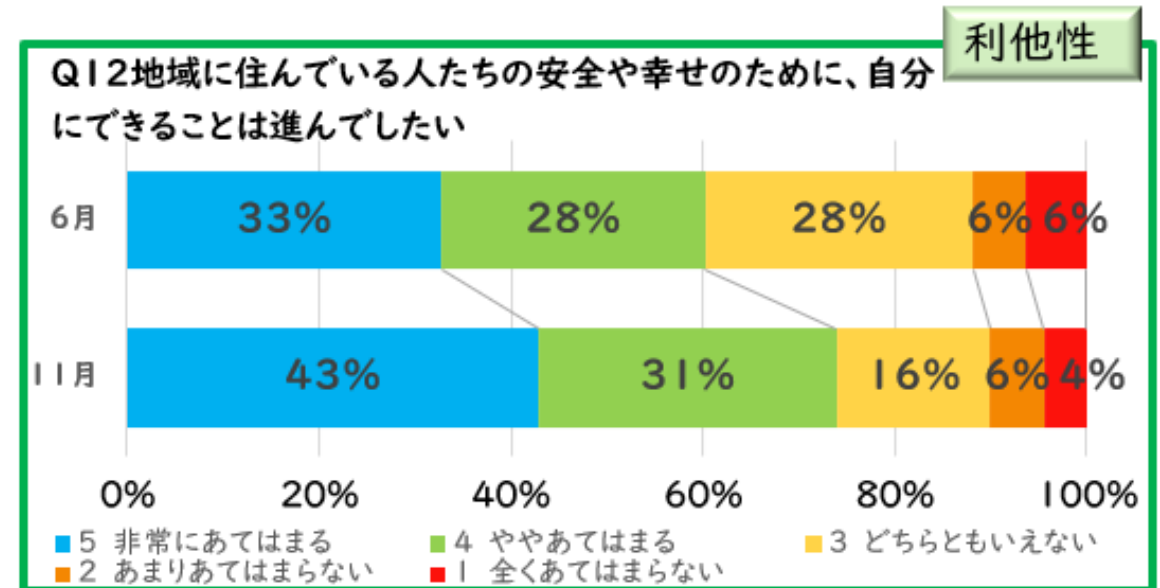
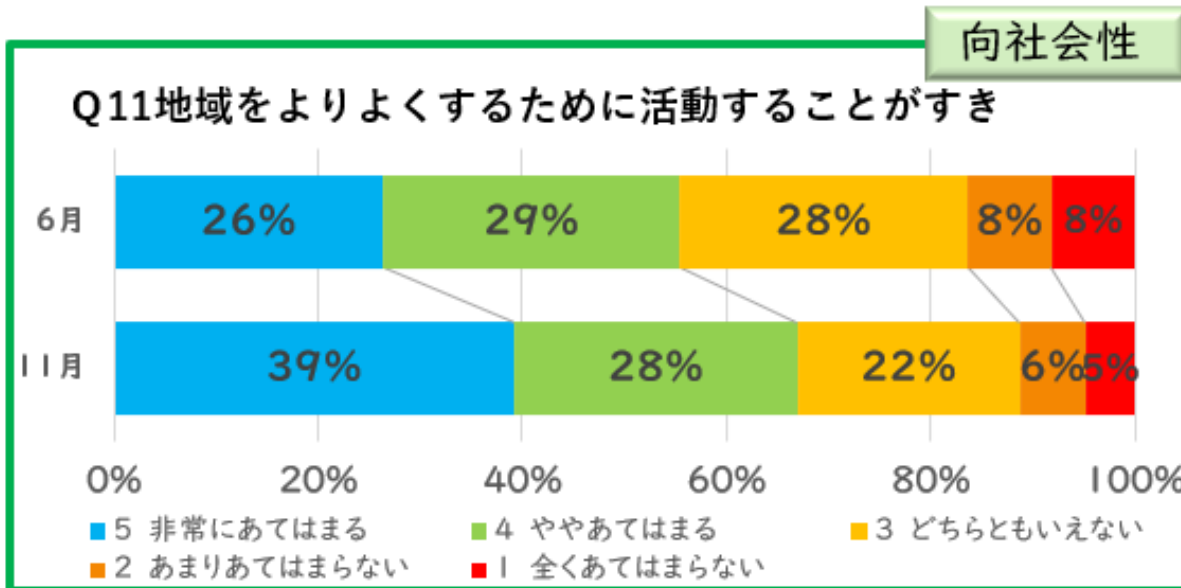
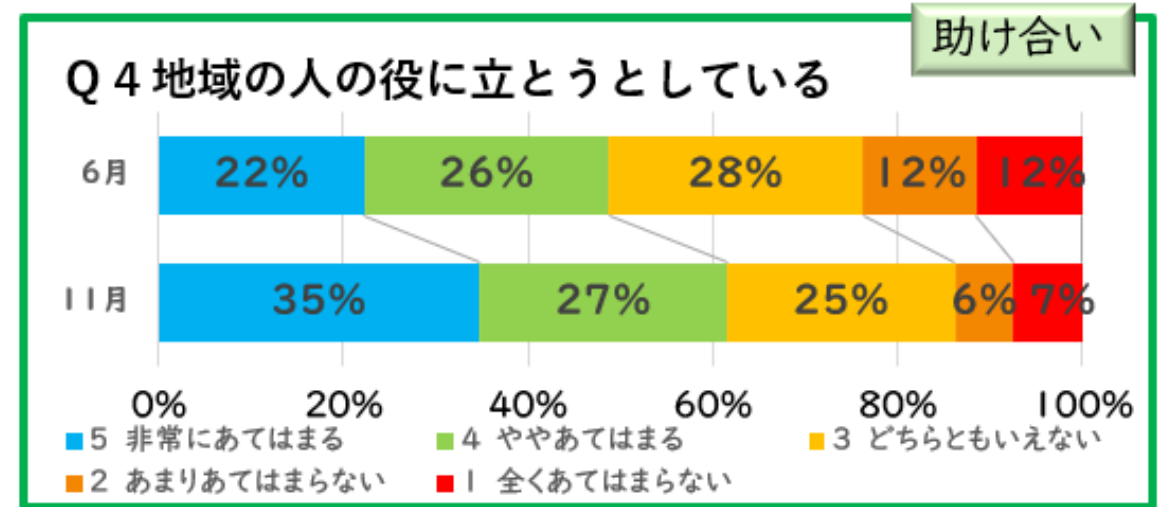
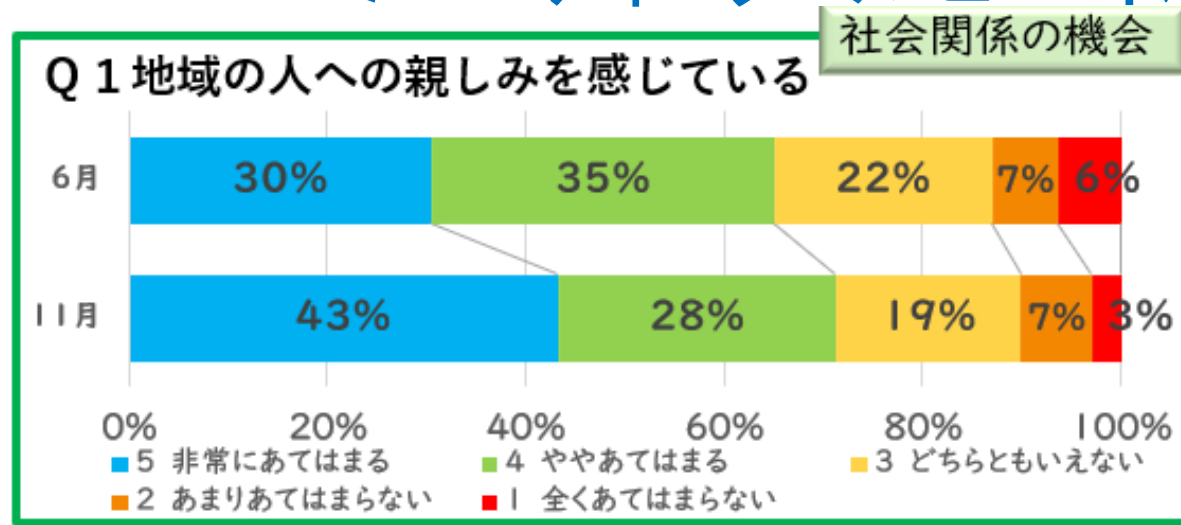
地域連携の負担・不安の軽減
地域連携教育による地域との関わり



コミュニティ・ウェルビーイング
ウェルビーイング(個人)の向上

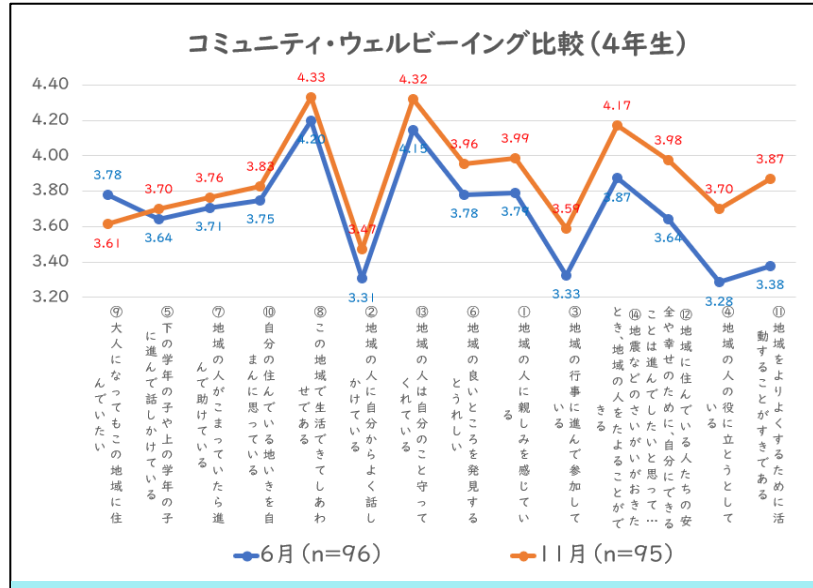
研究課題3(分析と考察)▶コミュニティ・ウェルビーイングの変化(児童)

コミュニティ・ウェルビーイング向上率の高い項目

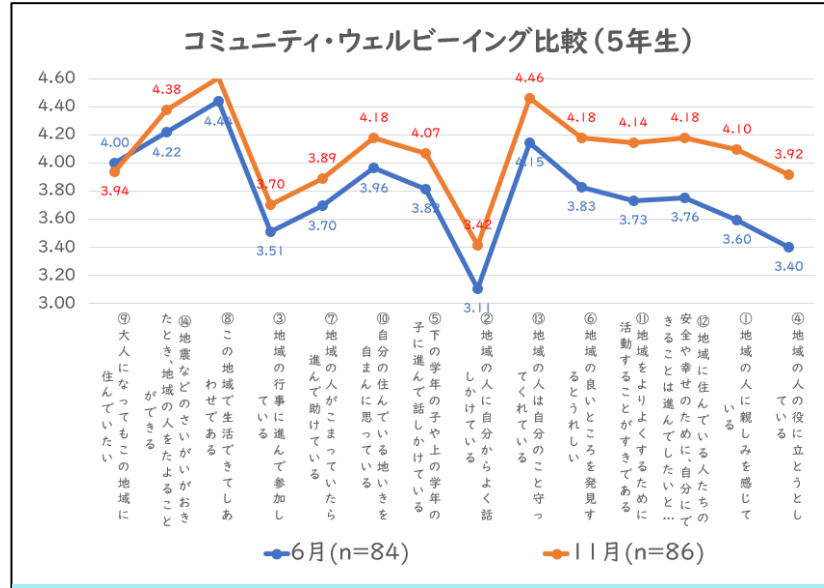


研究課題3(分析と考察)▶コミュニティ・ウェルビーイングの変化(児童)

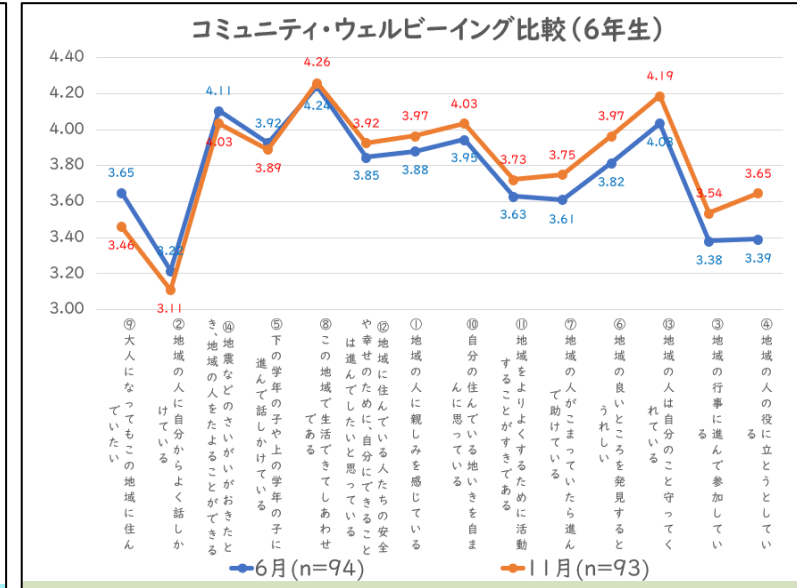
コミュニティ・ウェルビーイング学年比較



地域の課題解決型学習(防災)



地域の課題解決型学習(環境)



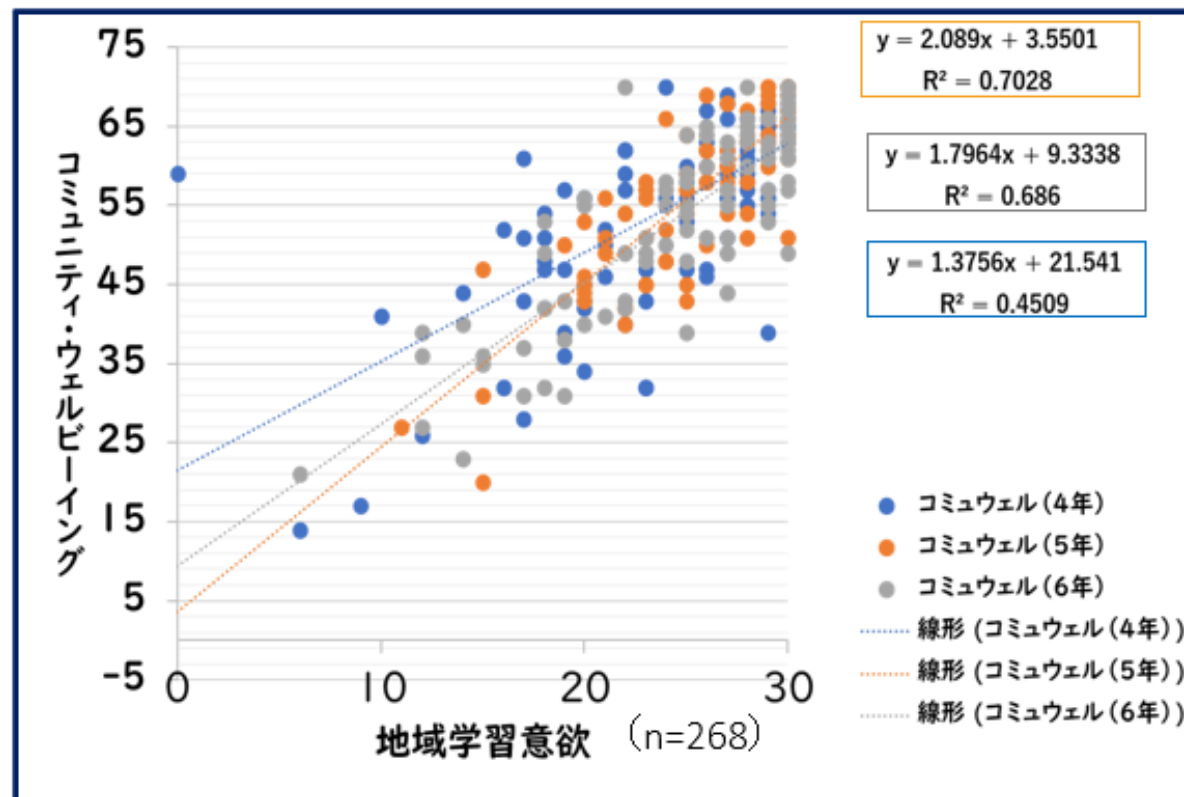
(平和学習・キャリア教育)

4、5年生は、地域への親しみ、助け合い、向社会性、利他性の向上率が高い。地域の課題解決型学習を設定していない6年生は4、5年生ほど大きな変化が見られない。

地域の課題を見つけ、自分にできることを考え実践していく学習が、コミュニティ・ウェルビーイングに影響したと考えられる。

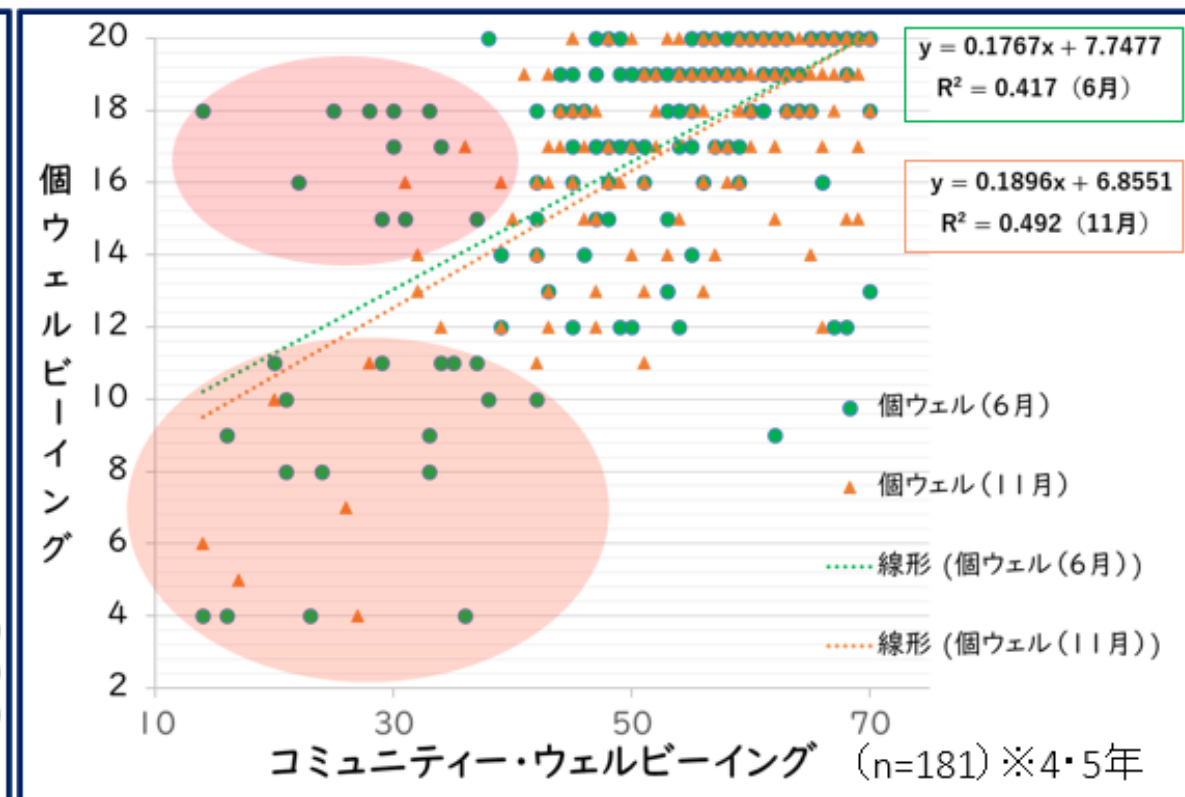
研究課題3(分析と考察)▶コミュニティ・ウェルビーイングとの関連

地域学習意欲とコミュニティ・ウェルビーイングの関係



地域学習への意欲が高い児童は、コミュニティ・ウェルビーイングも高い。
地域学習がコミュニティ・ウェルビーイングの向上に影響。

コミュニティ・ウェルビーイングとウェルビーイング(個人)の関係

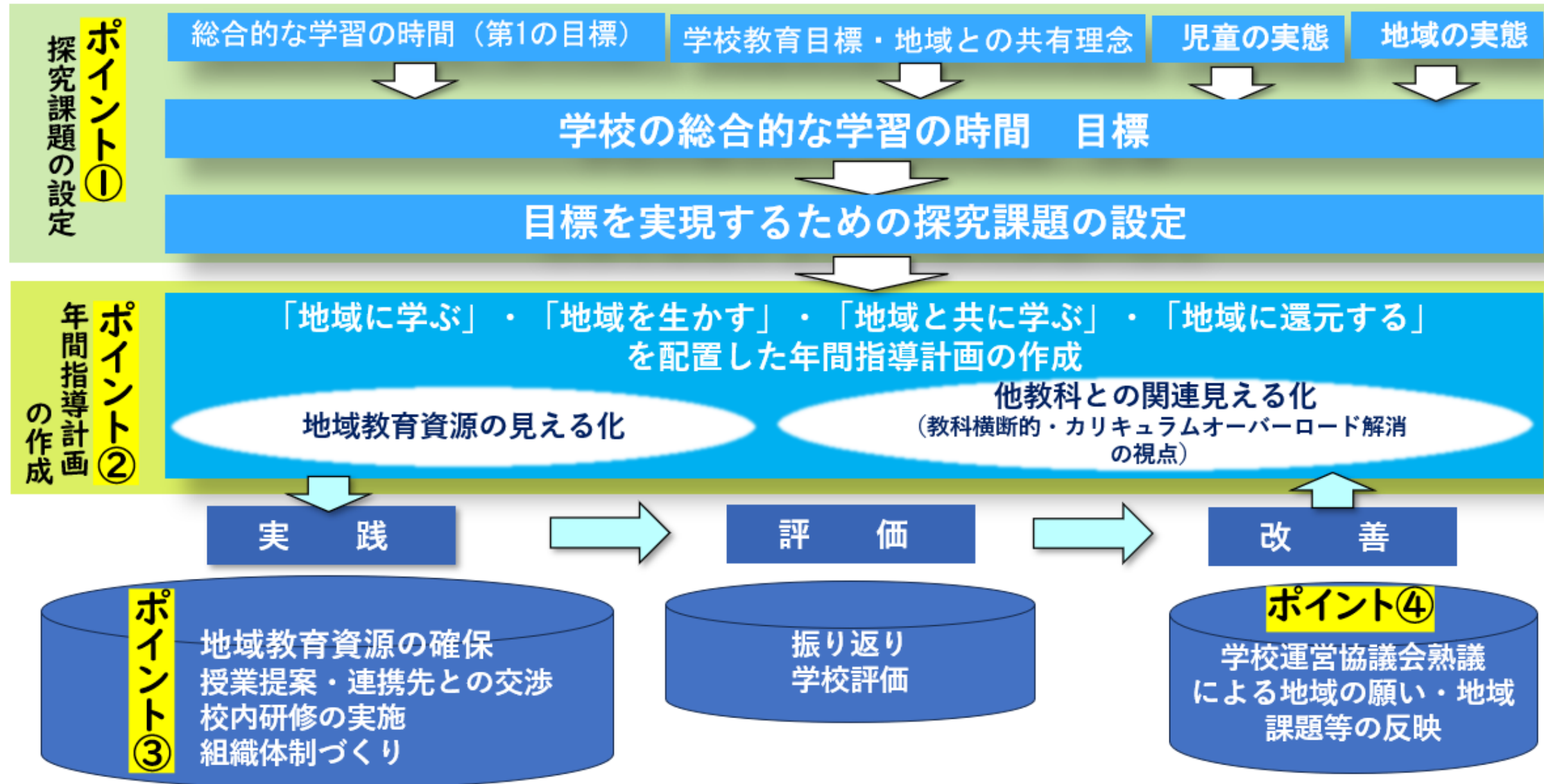


6月に個人のウェルビーイングのみ高い群が、11月に大幅に減少。双方が低い群も減少。
地域連携教育の授業により、ウェルビーイングの深化が図られた。

地域連携教育の推進により、児童のコミュニティ・ウェルビーイングが向上

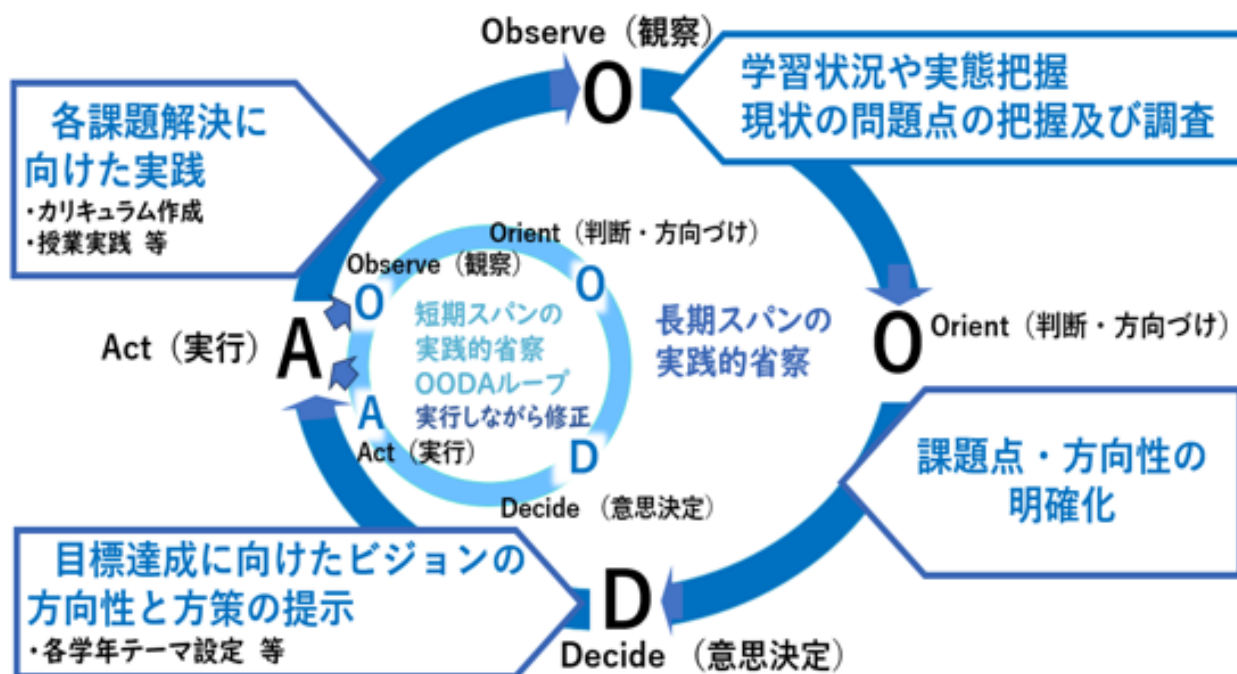
実践的示唆①:カリキュラム・マネジメントのポイント

総合的な学習の時間を核にしたカリキュラム・マネジメントのポイント



実践的示唆②：学校改善サイクル

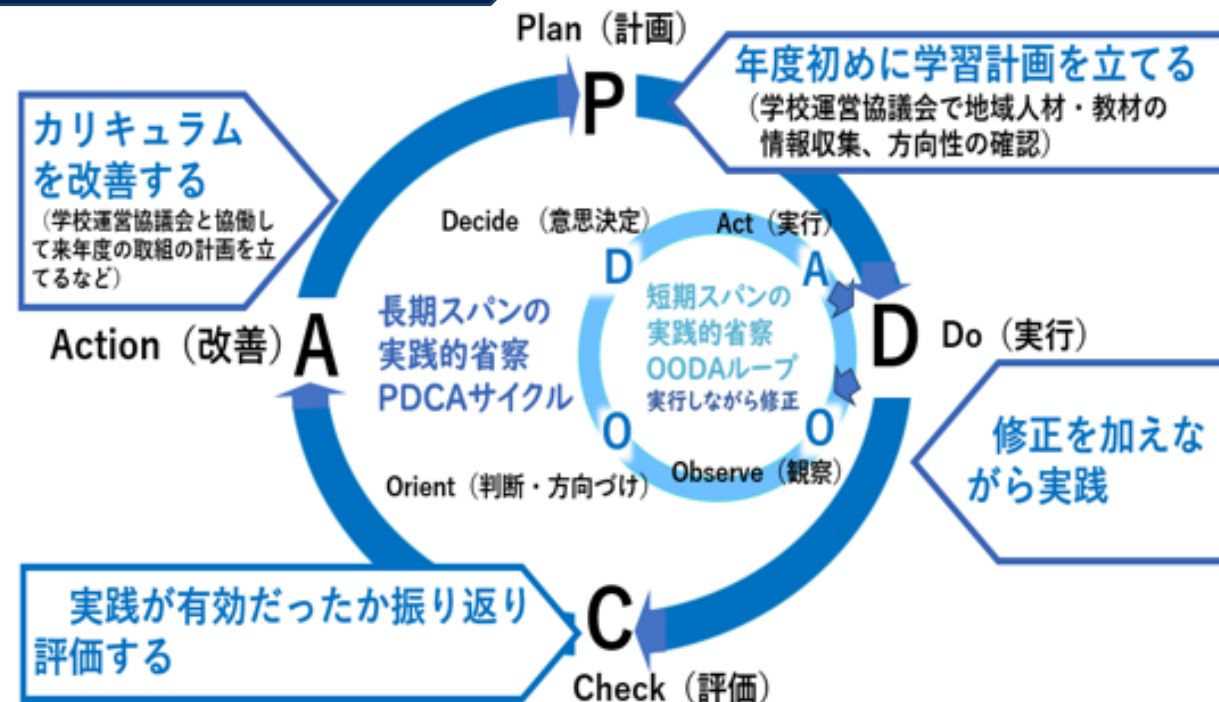
アフターコロナの学校改善



OODAループ思考

観察→判断・方向づけ→意思決定→実行
までのスパンが短い。
実行しながら評価し、カリキュラムを修正しながら改善していく。

軌道に乗ったら



PDCAサイクル

軌道に乗ったらカリキュラムの計画・改善を
学校運営協議会と連携・協働して行う短期スパンのOODAループと組み合わせたPDCAサイクルへと移行。

学校運営協議会や地域コーディネーターの配置だけでは、地域連携の推進を図ることは難しい。「地域とともにある学校づくり」に向かって、その取組を持続可能なものとするためには、校長の地域連携に向けた経営方針と、それを具現化する地域連携教育推進主任の存在が不可欠である。校長が示したビジョンのもと、推進リーダーとして戦略を持って、総合的に地域連携教育をマネジメントし実行する人材を確保することが、「地域とともにある学校づくり」の推進、児童のウェルビーイングの向上につながっていくと考える。

今後の課題と展望

1

地域を巻き込む「地域とともに学ぶ」教育活動をさらに充実させ、地域（保護者）のコミュニティ・ウェルビーイングの向上を目指す。

2

保護者のウェルビーイングについての調査を継続し、児童のウェルビーイングと地域（保護者）のウェルビーイングの関連性について明らかにする。

引用・参考文献

- 青木一・前川浩一(2019). コミュニティ・スクールを持続可能にする地域コーディネーターのキックオフ 三恵社.
- 井上武彦(2017). 学校と地域のネットワーク構築―地域連携担当教職員の役割モデルの開発― 愛媛大学教職大学院 実践研究報告書, 1号2017年度刊行.
- 貝ノ瀬滋(2017). 図説 コミュニティ・スクール入門 一藝社.
- 喜納朝博(2023). 校長がOODAループで考えたら学校の課題がみるみる解決した 教育開発研究所
- 熊谷慎之輔(2023). 岡山発！地域学校協働の実践と協創的教員養成「社会に開かれた教育課程の実現に向けて」 福村出版.
- 熊谷慎之輔・志々田まなみ・佐々木保孝・天野かおり(2021). 地域学校協働のデザインとマネジメント コミュニティ・スクールと地域学校協働本部による学び合い・育ち合い 学文社
- 田村知子(2022). カリキュラムマネジメントの理論と実践 日本標準.
- 露口健司(2016). 「つながり」を深め子どもの成長を促す教育学 信頼関係を築きやすい学校組織・施策とは ミネルヴァ書房.
- 露口健司(2016). ソーシャル・キャピタルと教育―「つながり」づくりにおける学校の役割 ミネルヴァ書房.
- 露口健司(2018). 教育の社会・制度と経営(篠原清昭 編著) 第14章「地域とともにある学校は実現できるか」201―213. ジダイ社.
- 中留武昭(2002). 課題を克服するための総合的な学習 成功のカギ ぎょうせい.
- 文部科学省(2015). 新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策(答申)中央教育審議会.
- 文部科学省(2017). 地域学校協働活動推進のための地域コーディネーターと地域連携担当教職員の育成ハンドブック 国立教育政策研究所 社会教育実践研究センター.
- 文部科学省(2023). 次期教育振興基本計画について(答申)中央教育審議会.
- 文部科学省(2023). 「計画ポイント解説～ウェルビーイング編」 内田由紀子・中央教育審議会委員.